

総合支援学校 高等部  
地理歴史 世界史B

キーワード 遠隔授業（ベッドサイド学習）  
ビデオ会議システム

「ヨーロッパの拡大と大西洋世界 - 大航海時代 - 」

<ビデオ会議システムについて>

ビデオ会議システムとは、教室と病棟にそれぞれ端末を設置して、インターネットで校内ネットワークと接続するものであり、教室と病棟のそれぞれの映像と音声は双方向で配信され、教室側（親機）だけではなく病棟側（子機）からも教室側カメラのズームや上下左右への移動操作が可能である（教室側から病棟側カメラの操作は不可）。

また、コンピュータや書類を謄写する書画カメラ、ビデオプロジェクタ等の機器が、必要に応じて接続できる。

<ビデオ会議システムの活用環境>

教室側（親機）：ビデオ会議システム端末（カメラ・モニター分離型）、付属マイク、モニター2台（教室・病棟映像モニター用）等

病棟側（子機）：ビデオ会議システム端末（カメラ・モニター一体型）、操作用マウス、ヘッドセット 等

1 単元の学習

単元目標

大航海時代を契機に、ユーラシア規模から地球規模の交流に拡大したことを理解させる。  
16世紀から18世紀のヨーロッパで主権国家体制が築かれたことを理解させる。

対応する学習指導要領の内容

教科・領域等	内容等
世界史B (ヨーロッパの拡大と大西洋世界)	・16世紀から18世紀にかけてのヨーロッパ世界の特質とアメリカ・アフリカとの関係を理解させる。

2 指導略案

単元指導計画

指導内容等	時間
大航海時代	(本時) 1時間
ルネサンス	1時間
宗教改革	1時間
近代主権国家の成立	4時間

本時の目標と展開

【目標】

インド航路開拓、アメリカ大陸到達、世界周航を地図の中で把握させる。

ポルトガル・スペインの海外進出やその背景、海外進出が世界やヨーロッパに与えた影響について理解させる。

## 【展開】

学習活動	教師の働きかけと指導上の留意点（情報機器・教材の活用）
海外進出の背景を整理する。	自作教材プリントの該当箇所に教科書の要点を記入させ、発表させる。 ・カメラで記入内容を確認する。 ・マイクの音量が適切かを確認する。 要点を板書しながら説明する。 ・板書の字の大きさやチョークの色などが適切かを確認する。
ポルトガル・スペインの海外進出について整理する。	インド航路開拓、アメリカ大陸到達、世界周航の航路を地図の中で確認させ、自作教材プリントの該当箇所に要点を記入させる。 ・カメラで記入内容を確認する。 要点を板書しながら説明する。
ヨーロッパ人の海外進出の影響について整理する。	世界への影響、ヨーロッパへの影響に分けて、自作教材プリントの該当箇所に要点を記入させる。 ・カメラで記入内容を確認する。 要点を板書しながら説明する。

## 3 展開の実際

### 【対象学年・児童生徒】

高等部3年生3名（入院生徒1名）

### 【遠隔授業（ベッドサイド学習）】

本校に隣接する下関市立豊浦病院に入院している生徒は、病状に応じて病棟内のベッドで学習できるよう本システムが導入されている。本事例の生徒は、分食（ ）の摂取と酸素吸入の必要から3・4校時の授業が原則ベッド学習となっているため、病棟と教室を本システムで結び、教室にいる生徒と交流しながら、ベッドサイドで授業を受けることができる。



### 分食（分割食）

1日に3食+2~3回に分けて摂る方法。体調に合わせて徐々に量を増やし、1回量が摂取できるようになったら、回数を減らしていく。

## 4 情報機器等の活用の工夫

### 【本システム活用時の工夫（指導上の留意点）】

本事例の生徒は、呼吸器をつけた状態で、ベッドに横になってビデオ会議システムを利用して授業を受けており、生徒が板書をノートに書き写すことが難しいため、毎時間の授業の前に学習内容の要点をまとめたプリントを渡しておくとともに、授業後に板書をプリントして渡している。今後、教室等に導入した電子黒板の利用による利便性の向上を期待している。

また、本システムが導入されていない学校においても、Webカメラとマイク、スピーカー（ヘッドホン）等があれば、インターネットを通しての双方向のコミュニケーションが可能であり、交流及び共同学習における活用も含めて、実践の蓄積が求められる。



## 5 情報機器等の活用の効果

### 【本システム活用のメリット】

病室のベッドの中での授業は、児童生徒にとって、時に孤立感を感じるものであるが、教室での授業にリアルタイム・双方向で参加できることで、病室に居ながら友達と一緒に授業を受けているという充足感が得られ、孤立感の軽減につながった。

### 【本システム活用の改善・工夫点】

児童生徒は、ベッドに横になった状態でテレビを見ながら、教科書・プリント・ノート等を同時に見ることになり、ブックスタンドなどの補助具の利用とともに、児童生徒の学習の状況の確認等、ビデオ会議システムを活用するための校内授業研修等が必要である。